



消防団員と 協力事業所を募集

あなたや協力事業所の力が必要です

災害時に、消防団の活躍によって大勢の命が救われています。地域の安全を守る消防団員、協力事業所として活動しませんか。

問い合わせ 消防推進室（消防庁舎1階、☎26・9128）

消防団は地域の安全を守る

消防団は消防署と同様に、市町村に設置される消防機関です。

地域住民などの有志で構成され、消防・防災活動を通じて、住民の安全と安心を守る大切な役割を担っています。

消防署と消防団の違い

消防署は、消防職員が常時消防業務に当たるのに対して、消防団は、日頃サラリーマンや自営業など、それぞれの職業に就いている人が、大規模災害が発生したときなどに消防団員として、消防職員とともに活動します。

現在、帯広市消防団では約350人（うち女性20人）が、市内12カ所の区域で消防団員として活躍しています。

消防団員の活動

大規模災害が発生したときには、自宅や職場から現場へ駆けつけ、主に消火、救助、避難誘導を行います。平常時は、災害に備えた消火訓練や防火指導を行います。また、女性消防団員は独り暮らしの高齢者宅への防火訪問、演劇によ

る防火教育、応急手当での指導も行っています。

市民の皆さんが 消防団員になるには

- ・ 市内に居住している人
- ・ 18歳以上の人
- ・ 心身ともに健康な人

このほかにも要件があるので、問い合わせください。

消防団活動に協力して 地域貢献をPRしませんか

社員に消防団員が複数いるなどの事業所に「消防団協力事業所表示証」を交付します。協力事業所

は市ホームページなどで紹介しているの、事業所の社会貢献を市民にPRすることができます。申請は随時受け付けています。地域防災の輪が広がり、市全体が災害に強いまちになるように、事業所の皆さんの協力をお願いします。

消防団協力事業所 認定事業所

事業所	団員数
帯広市川西農業協同組合	6人
帯広大正農業協同組合	6人
株式会社北海道エコシス	2人
有限会社仁科建設	2人
宮坂建設工業株式会社	2人
ネットトヨタ帯広株式会社	2人
株式会社第一飼料	2人
損保ジャパン日本興亜帯広支社	2人
北海道エネライン道東支店帯広営業所	2人

（平成28年12月31日現在）



予測できない災害から 地域を守りたい



宮坂建設工業株式会社

代表取締役社長 宮坂 寿文さん

防災活動は建設業の役割の一つと考え、地域に貢献できる企業を目指して消防団協力事業所になりました。予測できない災害に見舞われたときに、消防団員のバックアップとして地域の安全確保に努めています。

消防団の活動を通じて、地域を支える企業としての自覚が生まれ、地域貢献できる会社に勤めているとの実感が社員にも伝わり、やりがいにもつながっています。

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

冬季アジア大会

帯広市長 米沢 則寿



の国際大会のほか、日本クラブユースサッカー選手権や大学・実業団の合宿の受け入れにも地域を挙げて取り組んできました。

こうした各種大会の誘致は、国際クラスの大会では何が求められているのか、あるいは、アスリートや同伴する家族、観戦する人たちは何を望んでいるのかを理解し、それらにどう対応していくのかということを考え、実践していく貴重な機会になっています。

私たちは、外からお客さまをお迎えするとき、自分たちが考える地域の魅力を売り込むことに力を注ぎがちになります。しかし、「選ばれた地域」になるためには、訪れる人の立場に立ち、何を求めているのかを理解することも重要ではないかと考えます。お客さまの求めに、この地域にある資源を使って工夫を凝らしながら対応していく。その中で、隠れた地域資源がお客さまのニーズと結びつけば、地域特有の魅力ある資源に生まれ変わるかもしれません。そして、このまちを訪れた人たちが、私たちのぬくもりのある親切な対応に触れ、心地よく過ごせたなら、きっと「また行ってみよう」とリピーターになってくれるはずです。

冬季アジア大会も、「十勝・帯広のおもてなし」を見つめ、学ぶ貴重な機会になると思います。これを次のチャンスにつなげ、積み重ねていくことで、この地域の魅力をさらに高め、十勝・帯広への新たな人の流れを創り出していきたいと考えています。

この冬、十勝・帯広、そして北海道全体が冬季スポーツの熱気に包まれ、大いに盛り上がることを期待しています。

2月下旬、第8回冬季アジア大会が札幌市と帯広市で開催されます。帯広市では、20日から23日までの4日間、日本を含む10の国と地域の選手約90人が、帯広の森屋内スピードスケート場「明治北海道十勝オーバル」を舞台に、白熱の戦いを繰り広げます。

十勝・帯広は、これまでに6回、世界スプリント選手権やワールドカップなど、国際クラスのスピードスケート大会を積極的に受け入れてきました。こうした背景には、もちろん、国内屈指の製氷技術を誇る屋内スピードスケート場の存在があります。しかし、国際大会の開催には、競技施設だけでなく、首都圏からの交通アクセス、トップアスリートが快適に過ごせる宿泊施設、栄養バランスに配慮した食事など、さまざまな条件が求められます。

広告